

女子は古谷が初優勝、男子1位は細田

2007ITUコンチネンタルカップ七ヶ浜大会速報

古谷はジャパンカップ初優勝。細田は蒲郡の雪辱なる

7月1日(日)、宮城県七ヶ浜町の特設コースで、2007NTTトライアスロンジャパンカップ第5戦・2007ITUトライアスロンコンチネンタルカップ七ヶ浜大会が開催された。

前日までの小雨模様とは打って変わった晴天となり、水温は22度でウエットスーツ着用禁止。午前11時ちょうどスタートの男子は、韓国のリー・チャンヨンがスイムをトップで上がると、ブレット・マックウォーン(オーストラリア)、平野司(NTT東日本・NTT西日本)が続く。そのあと少し遅れて、ガレス・ハルバーソンらのオーストラリア勢と杉本宏樹(チームテイケイ)、ダニエル・リー(香港中国)が後を追う。

バイクでは、トップ集団の構成人数が何度か変わったが、結局オーストラリアのエイドリアン・コミノとジェイミー・ローズが逃げ、後続に1分18秒差を付けた。その後、25名の集団がランに移った。

ランでは、コミノが逃げ続けたが、3周目から細田雄一(ウイダー)とハルバーソンが猛追。最終周で細田がトップに立つとハルバーソンを寄せ付けず、蒲郡4位の雪辱となる優勝を果たした。細田は、「蒲郡で落車して練習ができなかったが、トップに立ったとき、ここで負けるわけにはいけないと思って頑張った」とコメント。

2位はハルバーソン、3位はダニエル・リーが入った。ハルバーソンは前週に続く2位。「この結果は、決して悪いものではない。細田の走りにはついていけなかった」と、あっさり脱帽した格好となった。



砂浜を走り込むスタートの七ヶ浜大会



女子バイクの第1集団。先頭は浅沼

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



NTT東日本



NTT西日本



女子は古谷が初優勝、男子1位は細田

2007ITUコンチネンタルカップ七ヶ浜大会速報

午後12時10分にスタートした女子は、スイムを古谷あかね(トヨタ車体)、ケリー・ラング(イギリス)、足立真梨子(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)、中島千恵(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)、浅沼美鈴(愛知県協会)の順でフィニッシュ。

バイクでは、2週回目から前述の5名がバイクで先頭集団を形成した。続く第2集団の10名は、前週の覇者高木美里(湘南ベルマーレ)、前週3位の田中敬子(NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58)、七ヶ浜を得意とする大松沙央里(トヨタ車体)らが入っていた。第1集団と第2集団は、2周回を終わるころには差は2分に開いたが、その後差が縮まり、ランへのトランジションに選手たちが飛び込んだときには、1分10秒になっていた。

ランに最初に出たのはラング。すかさず古谷が後を追うと、二人のマッチレースとなった。後ろから、フェリシティ・シーディ(オーストラリア)、大松、菊池日出子(チームテイケイ)が追いつけるなか、4周目に入る手前で古谷がリード。そのままラングとの差を維持して、古谷がジャパンカップ初優勝を果たした。古谷は、「ここで前に出ないと表彰台すら危ないと思った。勝つためには先に仕掛けるしかなかった」とレースを振り返った。

2位はラング、3位はシーディ。ラングは、「来日したばかりでよく眠れなかった。スコットランドに住んでいるので、今日は暑かった」とコメントした。

なお、4位には粘り強く追った大松が入った。

このレースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



ジャパンカップ初優勝に喜びを表す古谷

古谷 あかね
(トヨタ車体)



ランのフォームを改良しているところ。前にラングが走ってくれたので、風よけにもなったしペースもつくれた。勝つことを考えて後ろについた。最終周の前にラングが苦しそうだったので、ここでいくしかないと思った。先週に続いて、トヨタ車体で2連勝となり嬉しい。

細田 雄一
(ウイダー)



先週の蒲郡で落車して、バイクが壊れ、1週間満身に練習ができなかった。ピンチのときにチャンスがあると思い、どうやったら勝てるか考えていた。バイクでの1分以上の差をラン序盤で縮められなかったのが、思い切りランにかけた。ぎりぎりの勝利だった。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

